

## ふるさと徳地

～今、私たちにできること～



板垣 咲南 (いたがき さな)

山口県立防府高等学校佐波分校 2年

## ふるさと徳地

～今、私たちにできること～

板垣 咲南



### 活動概要

#### 活動の内容

私はさくらの病気「天狗巣病」について学びそのことを地域の人々や子供たちに伝える周知活動を主に行いました。昨年からの地域の小学校での天狗巣病についての発表や、徳地のさくらを天狗巣病から守る『さくらの守人』の方と協力し、病気にかかっている枝の剪定などを行いました。それに加え今年は、挿し木をしたり、山口大学の教授から専門的な知識を頂き、学生さんとも病気の伝え方などについて話し合ったりもしました。少しずつですがさくらを守ることに協力できていると思います。

#### 活動の特徴(新規性・発展性)

この活動の特徴は、ポスターや発表を重ねていくたくさんの人々に天狗巣病について知ってもらうことができることにより、徳地のさくらがどんどんきれいになっていくことです。そのため天狗巣病について知識を多く身に付け、誰にでもわかりやすいポスター作りに取り組んでいます。そして、早く天狗巣病や徳地の桜の現状を多くの人に知ってもらい、徳地の桜がもっともっときれいになってほしいと思います。

#### 活動の成果

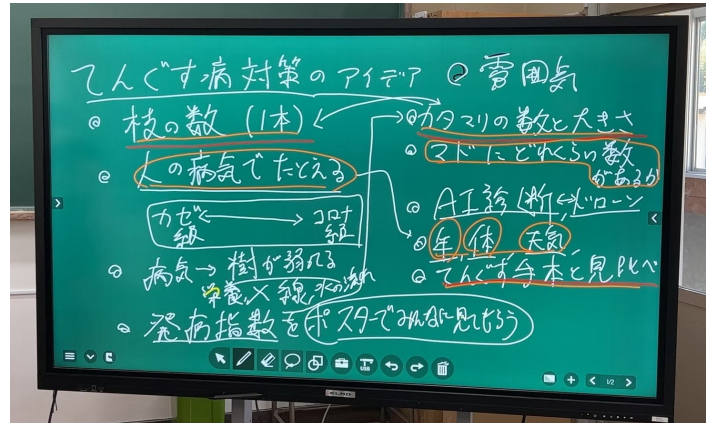
この活動を通して、徳地のさくらを少しでも綺麗にできたり、たくさんの人に天狗巣病について知ってもらったりすることができました。病気にかかっている枝を剪定しスッキリした木を見たり、病気にかかった枝を見つけて喜んでいたり小学生の笑顔を見れたり嬉しい気持ちになりました。現在は啓発用のポスター作製の改良に取り組んでいて、専門的かつわかりやすいものを目指して試行錯誤しています。

### 課題の設定と意図

この活動で取り上げた課題は、一人でも多くの方々に天狗巣病について知ってもらおうということです。この活動は昨年から取り組んでいるのですが、まだまだ周知が足りないと思っています。そこで年齢問わず、より多くの人に天狗巣病とその現状について知ってもらいたいという気持ちが大きくなってきました。昨年は啓発はもちろん、剪定したさくらの枝で染め物に挑戦してみたり、キーホルダーなどグッズ作成をしたりなどにもチャレンジしてきました。今年からは2年生全員で、スイーツ開発グループ、枝を使った作品開発グループ、啓発活動グループに分かれて活動し、さくらに興味をもってもらうきっかけづくりを様々な視点から行っています。私は啓発活動グループとして、興味をもってくれた人たちにわかりやすく天狗巣病についての知識と現状が伝わるように努力しています。2年生全員で徳地のさくらについて取り組むことにより、一体感が生まれ昨年よりも積極的に取り組めるようになりました。

### 課題解決のための仮説と計画

この課題を解決するためには、「天狗巣病」をいかにわかりやすく、親しみやすくするのが大事だと思いました。そこで、活用しようと考えたのがポスターやチラシです。なにも知らない地域の方々はどうすれば興味をもち、手に取ってくれるか考えました。まだ作成の途中段階ですが、最終的には天狗巣病を知ってもらい、その後どうしたら桜を守れるか考え、行動に移してくれるきっかけになるようなものを目指して作成しています。ポスターやチラシの中には、スケールと言って、知識がない人でもその病気の重症度が分かるよう段階的に示したものを取り入れ、その段階を天気で表すことにしました。このスケール作成には、大学の先生や学生さん、さくらの守人の方々と一緒にたくさん案を出しました。その後、私たちがまとめて今の形になりました。壁に貼れるような大きなポスターから、地域の方が気軽に手に取り持ち帰れるような小さなチラシのようなサイズなど、様々なものを用意しようと考えています。ポスターやチラシは、剪定可能な寒い時期には地域の施設に置かせてもらえるようお願いに行く予定です。他にも啓発活動として、昨年訪問することができなかった地域の小中学校でも発表をし、さらにこの天狗巣病について知ってもらえたらいいなと思っています。





## 活動で工夫できたこと

わたしがこの実践活動で工夫できたことは、どうすれば小さい子どもからお年寄りまでのたくさんの方々に分かりやすく、ていねいに伝えることができるかということです。パワーポイントを使って小学校で発表するときは、漢字をあまり使わないようにしたり、難しい言葉をわかりやすい言葉に変えたり、写真を多く使ったりなどたくさん工夫を凝らして少しでも分かってもらえるようにしました。その後、小学生たちが校庭に出て楽しそうに天狗巣病にかかっている枝を見つけている様子を見た時、やって良かったなと啓発活動のやりがいあらためて感じました。ポスター作成では、天狗巣病を全く知らない人でも分かるように説明を簡単にしたり、写真を多く使用したりとみんながパッと見て読む気になるように工夫しました。さらにスケールでは、まだ完成途中ですが、小さい子からお年寄りまで誰が見ても分かるように選択肢を必要最低限に抑えたり、深刻度を天気であらわしたりと、難しい言葉を使わず簡単に表現するように気を付けました。他にも、大学の先生からいただいた天狗巣病の原因である「タフリナ ウィースネリ」という病原菌の顕微鏡写真をいれ、少しでもポスターの前で立ち止まってもらえるように専門的な部分も取り入れています。昨年の私たちの活動をきっかけに現在、山口大学大学院の学生さんの一人が卒論のテーマとして天狗巣病について研究してくださっています。その方や山口大学の先生とも引き続き連携をとりながら、ポスターやチラシ・スケールの内容や情報を更新していけたらと考えています。もっと分かりやすく、よりよいものを目指してこれからも工夫を凝らし取り組んでいきたいと思えます。



## 活動で得た学び・気づき

この活動を通してわたしはたくさんの方の話を学ぶことができました。学校の先生から地元のさくらの話を聞き、さくらの守人の方から詳しく話を聞くまでは、さくらにそんな病気があること、そして既にそれがとても深刻な状況であることを全く知りませんでした。生まれてからずっと住んでいる地元であるにもかかわらず、この事実を知らなかったことを知り、詳しく知りたい、私も地元のさくらを守りたいと思いました。それから、さくらの守人の方、山口大学の先生、山口大学の学生さんたちと活動を進めていくうち、天狗巣病は人体には影響はなくノメイヨシノという桜への影響が大きいこと、徳地のさくらだけでなく県内・全国で多く感染しているということ、感染すると数年後には枯れてしまうかもしれないこと、水辺が近く湿気の多いところに感染している桜が多く病原菌の胞子が飛ぶ時期は限られていること、今のところ薬などはなく剪定するしか治療法はないということなど、大学の先生の協力のおかげで自分達だけではわからなかった専門的な知識を学ぶことができ、さくらの守人の方のおかげで地域の現状をより詳しく知ることができました。その他にも、啓発活動を通して、どうしたら聞く耳を持ってくれるかやうまく伝わるかというのを、クイズ形式にしてみたり声色を変えてみたりコスプレをしてみたりなど考えながら取り組みました。スケールを作る時も、さくらの守人の方、山口大学の先生、学生さんたちとたくさん意見を出し合い、誰にでも分かるたとえや人による判断の違いがなるべく出ないようになど、正確でわかりやすい方法を一緒に考えました。

このことにより、伝えたい相手によって表現を変えることの大切さ、またわかりやすく人に伝えることの難しさを知ることができました。そして自分自身はじめは知識がなくうまく伝えられなかったが、たくさんの方の話をしたり、聞いたりしていくうちに、知識や上手な伝え方が身についてきたのを実感しました。それと、今年は2年生全員でさくらのことについて取り組んでいるので、学年の団結力も上がってきていると思うし、以前より行動力や発想力が増してきているのではないかと思います。この約1年間を通してたくさんの方の話を学び、取り組むことができ、自分自身も成長することができました。

## 今後の展望・新たな取り組み

今回の活動を踏まえ、わたしはもっと地元である徳地について知り、地域に貢献していきたいと思いました。今回の活動で取り組んでいる天狗巣病というさくらの病気、それを少しでも多くの人に知ってもらい、このふるさと徳地をより良くしていくことが今の私たちにできることだと思います。これまでに学んだことを忘れず、さらに新しい知識を増やして、これからもたくさんの方に天狗巣病のことや地域の現状を伝えていきたいです。

また、徳地地域は高齢化が進んで子どもなど若い世代が少なくなっています。高齢者の方だけではできないこと、若い世代の人だけではできないこと、それぞれあると思います。そんな時、人生経験が豊富で地元への愛情が強い高齢者の方と、新しい発想と活気あふれる若い世代の力が合わさればできないことはないと思います。そんな時、徳地地域にある唯一の高校、佐波分校の生徒が地域に協力することが大切だと思います。今の1年生が卒業するとともに佐波分校もなくなってしまいますが、それまではみんなで地域活性化に地域を巻き込んで全力で取り組んでいきたいです。もちろん、卒業した後も徳地地域を盛り上げられるように地元のイベントや行事には積極的に携わってきたいです。私は母の実家も父の実家もこの徳地で、小さい頃からこの徳地で育ってきたので徳地がとても好きです。旅行など、遠出したとき徳地に帰ってくるととても安心し、自分の中で徳地は心が落ち着く安らぎの場所です。将来自分がどこに住むかはわからないけど、イベントがあるときはもちろん、定期的に帰ってきて地域のために行動したいです。そして毎年春には、地元のきれいな桜とともに徳地の人たちの笑顔を見ることが出来たらいいなと思います。

## 1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	中国
グループメンバー	氏名①	安村 歩		氏名③	
	氏名②			氏名④	

## 2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立山口徳地青少年自然の家		修了日	2021/7/15	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	千々松和紙工房で、和紙について学び、和紙すき体験をした。					
実践活動期間	2021/7/16 ~ 2021/11/25					
活動のタイプ	発展的な活動					
協力者	主な協力者			協力内容		
	所属	さくらの守人		活動助言を頂いた。		
	氏名	水津久美子				
	所属	山口大学		てんぐす病のスケール作りについての助言を頂いた。		
	氏名	佐々木一紀				
	所属					
氏名						
協力者総数	2名					

## 3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 15 日

事前:準備・打合せ	5日	本番:メインの活動	7日	事後:ふりかえり・報告	3日
-----------	----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
テレビ	取材された	3回以上	活動の取材をされた。(教授からの指導の様子や、ワークショップの様子など)

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
4/28 ~ 6/8	①事前学習・打合せ等	学校	活動計画立案、情報収集
6/16 ~ 9/22	②実践活動本番	学校	広告作成、スケール作成など
9/29 ~ 10/27	③事後打合せ・報告会等	学校	活動の振り返り

# 私たちの故郷とくぢ

～桜を守るためにできることは～





# 私たちの故郷とくぢ

～桜を守るためにできることは～

安村歩



## 活動概要

### 活動の内容

私たちは、天狗巣病について知ってもらうために、今年からチラシやポスターを制作しています。また、スケールという天狗巣病の重症度を簡単に表したのもも作成しています。スケールは、9月頃に山口大学の先生ご指導の下、昨年の私たちの活動がきっかけで天狗巣病についての卒論研究を行っている学生さんや徳地地域でさくらを守る活動しておられる「さくらの守人」の方などと作成の案を出し合い、作成に取り組んできました。天狗巣病についてもっと地域の方々に知ってもらうために、小さなサイズのチラシなども配ったりする予定です。

### 活動の特徴(新規性・発展性)

この活動の特徴は、天狗巣病のことを知らない方々にポスターなどを使って天狗巣病について知ってもらうことです。昨年は小学生などを中心に天狗巣病についてわかりやすくパワーポイントを使って発表をしました。今年は天狗巣病のことをまだ知らない、地域の方々や中学生にポスターやチラシを使って天狗巣病について知ってもらうと活動しています。

### 活動の成果

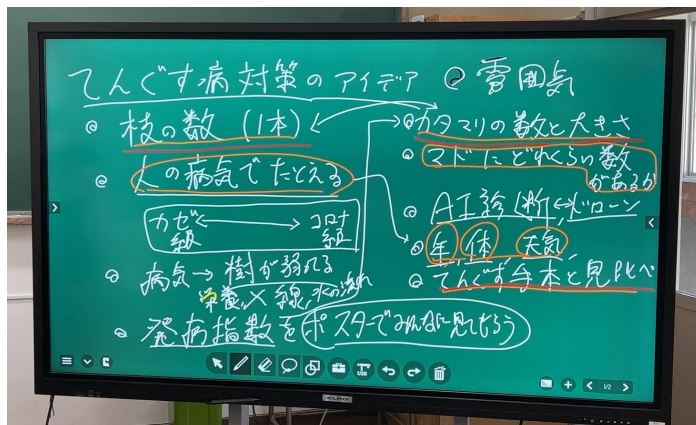
天狗巣病のことを様々な年代の方々に伝えることができたことや地域の桜を治療し少しでも桜をきれいにできたことです。この活動がなければ、私も桜の病気のことを知ることもなく地元のさくらが天狗巣病によって深刻な状況にあることを知らなかったと思います。ですのでこうして、地元のさくらを守るお手伝いができているということが嬉しく思います。これからも引き続き、啓発活動などで地域に貢献していきたいと思っています。

## 課題の設定と意図

私たちがこの活動で取り上げた課題は、天狗巣病の病気をまだ知らない方々にポスターなどを使っていかにわかりやすく深く知ってもらうかが課題です。この課題を取り上げた理由は、昨年は小学生を中心にパワーポイントを使って小学校に発表しに行きました。ですが、中学生や地域の方々には天狗巣病についてくわしく発表することができていません。ですので、今年は誰でも手に取りやすく、分かりやすく、見やすいもので啓発活動しようと考え、ポスターやチラシを利用して天狗巣病の病気を伝えられたいなと思っています。また、天狗巣病のことを知ってもらい、自分の住んでる地域の桜が病気にかかっていることを知ってもらい、自分たちで地域のさくらを守ろうという気持ちになってくれたらいいなと思います。それで、天狗巣病についてもっと知ってもらいたいと思この課題にしました。

## 課題解決のための仮説と計画

私は、どうすれば誰にでもわかりやすいポスターやチラシを作れるかを常に考えながら活動してきました。そこで出てきたのが、天狗巣病のスケール作成でした。スケールというのは、天狗巣病についてあまり知らない人にでもわかりやすく病気の進行段階を示したものです。はじめに、自分たちだけでどのような感じで作成するか話し合っていました、なかなかうまくいず、足踏み状態でした。そこで、昨年にもお世話になった山口大学の先生をお願いをして一緒に考えてもらうことにしました。そして9月、山口大学の先生や学生さん、さくらの守人の方や学校の先生方と一緒にどのようなスケールを作成するかについて話し合いを行いました。はじめに、昨年からの天狗巣病の研究でわかったことを大学の先生から教えていただきました。その後、どのような感じのスケールにするのか、病気の段階をどう示すかなど様々な案を全員で出していき、方向性が決まっていきました。その後、その後私たちがその案を利用しスケールを作製し第一弾が完成しました。それと同時に、ポスターやチラシも作成しています。ポスターのデザインは、パッと目に付くようにわかりやすく、見やすいものにし、チラシは誰でも手に取りやすく、わかりやすいものということ意識しました。このチラシやポスターを地域の支所やスーパーなど人目に付く場所に置かせてもらい、より多くの人に天狗巣病を知ってもらえればいいなと思っています。そのポスターやチラシにも、スケールを入れてよりわかりやすくしたいと思います。今後も、試行錯誤しながらより良いものに更新していこうと考えています。



## 活動で工夫できたこと

私が実践活動で工夫できたことは、小学生に天狗巣病のことについてパワーポイントを使い分かりやすく説明できたことや、チラシやスケールを作るときには、全く天狗巣病のことを知らない人でも、そのチラシやポスターを見れば簡単に理解できるように分かりやすく伝えられるように工夫しました。スケールやチラシなどは、実際に自分たちで撮った写真や大学の先生からいただいた写真を使い、わかりやすさとオリジナリティを出しました。実際の写真を使うことで、地元の問題をより身近に感じてもらい、自分事としてとらえてもらえるといいなと思い、自分たちで撮影した写真などを使用しました。



## 活動で得た学び・気づき

私が今回の活動を通して考えたこと、学んだことは、誰にでも分かりやすく物事を伝えることの大変さを学びました。天狗巣病を知らない人たちに、一から天狗巣病のことを簡単に分かりやすく教えるのは、とても難しいし、大変だなと思いました。小学生に教えるときは、一つ一つの言葉を簡単な言葉にしないと、理解できない子たちのほうが多いと思うので、地域の方々に天狗巣病のことを伝えるより時よりも説明を簡単にしたり、写真をたくさん使ったりなど工夫をしました。地域の方々に向けた、ポスターやチラシ、スケールには、実際に自分たちが撮った写真を使い天狗巣病がどのような見た目、どのような場所にあるのかを分かりやすくしました。地域の方々に天狗巣病を今まで以上に知ってもらえるように、さらに地元の写真を使うことで自分事として問題をとらえてもらえるように工夫しました。自分たちだけに、分かるようにするのは意味がないので、誰が見ても分かるように簡単な言葉を使い、かつ専門的な知識も盛り込んだポスターやチラシ、スケールを作成しました。

これからは今回学んだことを活かして、人に何かを伝えたいときは、伝える相手に合わせて適切な言葉や表現、方法を選び伝えていきたいです。

## 今後の展望・新たな取組み

今回の体験を踏まえて、今後の活動では桜のことをさらに誰にでも分かりやすく情報を伝えていければいいなと思っています。まだ、全ての地元の小学校で発表できたわけではないので、今後残りの小学校や中学校でパワーポイントやクイズを通して啓発活動をしていきたいです。また今年はポスターやチラシも作ったので、剪定作業ができる寒い季節の間に徳地地域のお店や総合支所に掲示させていただき、より多くの人たちに天狗巣病のこと、地域の現状について知ってもらいたいと思います。さらに、さくらの守人の方と協力して配布などもできたらいいなと考えています。大学の方々と一緒に考えたスケールは、ポスターやチラシの中にも入れたいと考えていますが、学校や総合支所など誰もが見やすい場所に大きいパネルにして掲示できたらと思っています。今の段階のスケールでは、まだまだ不十分なところもあるので、定期的に修正して完璧なものを完成させたいです。

卒業するまでには、天狗巣病のことについて今よりもっと知って、さらに詳しくなりたいです。天狗巣病のことをまだ知らない、地域の方々にも、天狗巣病の重症度や、天狗巣病が発生しやすい場所を知ってもらい、自分たちでも天狗巣病を治療できるまでになってほしいと思います。そのためには、自分たちが学んだ、桜の治療方法などを、たくさんの方々に伝えていけば、自分の育った地域、徳地を守っていけると思うので、これからも、桜のことについて積極的に関わり問題解決に向けて取り組んでいきたいです。また、自分の地域の桜だけでなく、ほかの地域の桜の状況も知っていくことで、地元の取り組みがまずは県内に広がればいいなと思います。そうすれば、山口県全体の桜をきれいな状況に保っていけると思います。そして最終的には、この活動が全国に広がって日本の桜を守っていければいいなと思います。でもまずはこれからも、地元の桜を守ってきたいです。

## 1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	中国
グループメンバー	氏名①	板垣 咲南		氏名③	
	氏名②			氏名④	

## 2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立山口徳地青少年自然の家	修了日	2021/7/15	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	千々松和紙工房で、和紙について学び、和紙すき体験をした。				
実践活動期間	2022/4/28 ~ 2022/10/27				
活動のタイプ	発展的な活動				
協力者	主な協力者			協力内容	
	所属	夢工房		活動助言を頂いた。	
	氏名	水津久美子			
	所属	山口大学		てんぐす病のスケール作りについての助言を頂いた。	
	氏名	佐々木一紀			
	所属				
氏名					
協力者総数	2名				

## 3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 15 日

事前:準備・打合せ	5日	本番:メインの活動	7日	事後:ふりかえり・報告	3日
-----------	----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
テレビ	取材された	3回以上	活動の取材をされた。(教授からの指導の様子や、ワークショップの様子など)

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
4/28 ~ 6/8	①事前学習・打合せ等	学校	活動計画立案、情報収集
6/16 ~ 9/22	②実践活動本番	学校	広告作成、スケール作りなど
9/29 ~ 10/27	③事後打合せ・報告会等	学校	活動の振り返り